



# 十西小だより

弥富市立十四山西部小学校  
学校だより 第28号

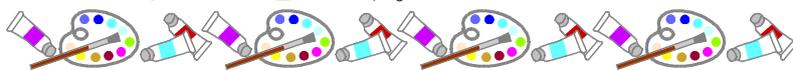


令和元年11月12日

## 十四山地区文化の集い



11月3日（日）に、十四山スポーツセンターで「令和元年度十四山地区文化の集い」が開催されました。第1アリーナの展示コーナーには、様々な団体の力作が並び、十西小も、書写作品やポスター、絵画、工作などを出品しました。また、第2アリーナの舞台発表でも十四山地区の子どもたちが日頃の練習の成果を披露する姿が見られました。それぞれの会場で親子で参観される姿があり、文字通り、文化の日にふさわしい時間を過ごされたのではないかと思います。



## 水害について考える

台風の影響による記録的な大雨で、日本の各地で洪水が発生しました。この地域でも大雨警報が発表されたことがありましたが、大きな被害はありませんでした。海拔0メートル地帯のこの地域は、かつてはたびたび水害にあっていましたが、昭和51年の水害を最後に大きな被害は発生していません。これは、この地域で大雨がなかったのではなく、水害を防止するためにたくさんのポンプが活躍していたためです。

現在、海部地域には、大小合わせ約130か所のポンプが農業用施設として設置され、いつも動いています。ポンプは、雨水が集まる低地に設置され、川へ水をくみ出しています。また、河口には高潮で海水が川へ逆流するのを防ぐとともに、川の水面を低くさせ、たまった水の排水をやすくするため、大きなポンプが設置されています。日光川の河口付近には2か所の排水機場があり、設置されているポンプは、5台合わせて毎秒200立方メートル（25メートルプールの約半分）の水を海へ排水する能力があります。私たちの地域は、これらのポンプのおかげで守られてきたといえます。

しかし、油断は禁物です。ここ数年の異常気象による豪雨は、想定を超えたものが多くなっています。木曾川や日光川水系の洪水浸水想定区域図によると、最大規模の降雨の場合、この地域にも浸水があり、日光川の氾濫で1メートルから3メートル、木曾川で3メートルから5メートルの水深になると予想されています。自分たちの住んでいる地域について理解を深め、災害への備えをしておきたいものです。

〈参考：愛知県ホームページ 海拔ゼロメートル地帯の防災〉

